

2020年4月22日

お客様各位

日産化学株式会社
農業化学品事業部
営業本部 営業企画部

女性セブン 4月23日号

『「食の安全先進国」フランスでは食べないのに日本人は食べ続けている食品リスト』
の記事について

平素はラウンドアップマックスロード製品をご愛顧くださり誠にありがとうございます。

さて、女性セブン4月23日号153頁以降に掲載された『「食の安全先進国」フランスでは食べないのに日本人は食べ続けている食品リスト』の記事において、ラウンドアップの安全性に誤解・懸念を生じる内容であったことから、下記の通り株式会社小学館に対して抗議をいたしましたことをご報告申し上げます。

ラウンドアップ（グリホサート）は、日本、米国、欧州各国を含め多くの国々で、安全性に関するデータが厳正に審査されて登録認可されています。

従いまして、製品ラベルに記載された注意事項を守り、引き続き安心してお使いいただきますようお願い申し上げます。

敬具

記

①154頁 5段

『発がん性や奇形性などの毒性があるとされている』

公知の事実のように記載されておりますが、この文言の根拠をお示し頂けますでしょうか。日本の内閣府食品安全委員会をはじめとして広範な入手可能な最新のデータに基づくリスク評価を行ってきた JMPR（農薬の安全性を評価する国連機関であり FAO と WHO の合同部会）、EU、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどの各国当局からはグリホサートに発がん性や催奇形性の懸念はないと評価しています。ご指摘の国際がん研究機関(IARC)が発がん性の可能性と言っているのは公表文献のみに基づいたものであり、暴露量を考慮に入れたリスク評価ではありませんので、規制に用いられるものではありません。*

* <https://www.iarc.fr/wp-content/uploads/2018/07/Monographs-QA.pdf>

②155 頁 表 『フランス人は食べないが、日本人は食べている食品』

表にグリホサートが挙げられていますが、誤りです。

欧州連合（EU）では現在、グリホサートの登録が認められ、多くの作物に対してグリホサートの残留基準値が設定されており、EU 加盟国であるフランスも受け入れています。残留基準値が設定されている作物に小麦、とうもろこし、ライ麦も含まれています。

また、当該記事本文中にもありましたように、フランスで使用が制限されたのは非農業場面での使用であり、それは有機農業で使用されている一部を除く全ての農薬が対象です。しかし、農業場面での使用はグリホサートを含め現在のところ禁止となっておりません。

以上